

新春のつどい 平成25年1月19日(土)

於：ホテルグリーンタワー幕張

INDEX

新春のつどい	1～2
臼井先生連載	2
会員企業訪問 波奈グループ・早野商事様	3
委員会報告	4
会員異動 / スケジュール	4

2013年のスタートは、 より元気に！ より華やかに！



穴倉会長の開会あいさつ



うすい先生のあいさつ



乾杯の発声は加藤前会長



司会進行の伊藤(公)、林(理)会員

平成25年1月19日(土)18:30よりグリーンタワー幕張にて会員46名・来賓6名計52名の参加者で「月星会 平成25年新春の集い 賀詞交歓会」を行いました。

穴倉会長・臼井先生を始め来賓の方々にご挨拶を頂戴し、加藤前会長の乾杯にて盛大に始まりました。

今年のお料理は少しアップ。もちろん飲み放題です。

第一アトラクションは、会員の紺谷さん(兄弟堂)による三味線演奏。

力強い三味線に圧倒されました。

第二アトラクションは、おろしぼんづによる大道芸。

普段は天井が無いので、大汗をかいて頑張っていました。

今年は受付にて、参加者皆様にご寄付をいただき、小さい金の豚の貯金箱を用意し、ジャンケン大会が始まりました。みな、真剣勝負の結果は霜さんの勝利となりました。

次は、誕生月の方々にお花のプレゼント、花の抽選会。

このように、色々なアトラクションが大成功し、時間も惜しまずあっという間に、お開きでした。

行きも帰りも、送迎バスを用意して安心して帰宅できました。

大成功！！

(親睦委員長 土屋文武)



猪口参議院議員秘書

長谷川IEG会長



衆議院初当選の門山、小林両先生もご参加



紺屋会員による津軽三味線演奏



おろしぼんず



石井参議院議員



1月のお誕生祝いのみなさん



産方副会長の首頭で手締め

連載



うすい日出男の 〈こくせいふかん〉の目

“日本海、波高し!!”

—平和ボケのお人好しでは、国土は守れない!—

先日、政府主催の東日本大震災慰霊祭が行われ、世界の120カ国を越える国及び地域の代表が日本の招待に応じて出席した。

しかし隣国の中国と韓国は欠席した。中国はその理由として日本が中華民国・台湾を正式招待し、代表献花に加えたことに対する抗議であることを公式発表した。この日本の措置は、台湾が東日本大震災に対する海外の救援・援助が最も早く、しかもその金額も最高額であったにも関わらず、野田内閣が中国の意向をおもんばかって、台湾の代表者を一般席に置き献花もさせなかったことに対する、安倍内閣の反省の意が込められていたのだ。

私は、この安倍内閣の措置はきわめて当然のものだと拍手を送りたい。

一方、同じく欠席した韓国は、単なる事務的ミスだとしているが、一大国の事務当局が、うっかり忘れまして

と言う馬鹿なことがあるはずもなく、これも明らかに“特定の意志が込められたもの”とみるべきである。

ここの処、竹島問題、尖閣列島問題に加えて北朝鮮の「韓国との戦時事態宣言」と、日本海の波は高い。中でも中国の尖閣列島問題に対する対応は、あからさまに日本の国土に対する侵害行為であり、実に連日のように中国沿岸警備艇が侵犯行為を繰り返している。

ここで我々日本が注意しなければならないのは、「日本の視線は中国にのみ向けられてしまっている」のに対し、一方中国の視線は「国際社会が尖閣問題をどう見るのか」にあることだ。

即ち中国は、尖閣列島周辺に中国艦艇を頻りに送り込むことによって、国際諸国から見て「尖閣列島があたかも中国の領土であるかのように誤認させる意図」をもって活動している。わが国民もさらに自国の領土をしっかりと守る意志と覚悟を育てていく必要がある。



前衆議院議員 白井日出男

第13回 波奈グループ・早野商事(株)

合言葉は「感動の手渡し」

多彩な業態で県内外に伸びる波奈ブランド

スタートは館山のお寿司屋さん

早野商事の事業をひと言で括れば飲食サービス業または外食チェーンとなるが、その中身を正確に説明しようとする、本欄の紙面全部を要してしまいそうだ。

千葉市周辺の人たちには、「すし波奈千葉富士見店」や中央区弁天の「波奈本店」など寿司や日本料理・海鮮料理がよく知られているが、実はそれ以外にもたくさんある。こだわりのとんかつ店（かつ波奈）、串焼きなど鶏肉料理の店（とり屋一億）、魚料理中心の居酒屋（浜庖丁）、イタリアレストラン（ラ・クッチーナ ハナ）、「自然食ビュッフェ」と銘打つ旬菜料理の店（奈のは）……等々。

「ラ・クッチーナ ハナ」や「奈のは」は現状1店舗だが、和食の「波奈」やとんかつの「かつ波奈」などはそれぞれ10店舗を超えており、業態ごとに多店舗展開をしているのである。

創業は、昭和40年に館山市に開店した6坪のお寿司屋さん。早野泰広社長がまだ生まれていない頃、先代の実父（現会長）が始めた。

早野社長は43年生まれたから、幼少の記憶はこの館山の寿司店から始まっているのだろう。子どもの頃から房総の地魚を握る父親と常連客が醸し出す温かくて元気のよい店の環境の中で育ったものと推測される。

ちなみに、この発祥の地は現在およそ140坪の大型店舗になり、寿司や地魚料理を中心とした「波奈総本店」として地元の人たちに今なお愛されている。

早野社長は、10代の頃から好んでお店の手伝いをしてるように、父親の仕事を尊敬し、自ら事業承継を思い描いていたようだ。大学を出て2年半ほどアメリカに語学留学したあと、「波奈」木更津店のオープン時（後年に閉店）から店長として入り、その後「かつ波奈」や弁天の「波奈本店」の店長などを経て、平成21年に事業承継をし、代表取締役となった。

創業から続けてきた寿司や魚料理だけではなく、とんかつや鶏肉料理などあえて異なる業態で店舗展開している点について、早野社長はこう語る。

「一つは立地によって店舗開発をしている面があります。その地域の特性、お客様が何を求めているかという発想です。もう一つは、他社とは違う外食チェーンとして独自性を打ち出してこうという考えもあります。右を向いても左を向いても同じ店構えの同じ料理というのではなく、店ごとの個性をも大事にしよう。それと、時代の変化が激しいので、一つの業態だけでは先々どうなるかわからないという経営的な発想もあります」



業態の違いは客単価の違いにもつながっている。たとえば、海鮮料理の「波奈本店」と居酒屋業態の「浜庖丁」では客単価にかなりの開きがある。業態開発の狙いを含めて、時代の変化や景気の波に右往左往せず、企業体としての確に対応しながら前進していく経営観がここに窺える。

波奈グループは正社員だけでおよそ220名の所帯となっている。これだけの社員を抱えているのだから、外部環境の変化によって立ち行かなくなる事態があってはならないという考え方が早野社長や創業者である会長の根底にあるにちがいない。

重視するのはマニュアルよりマインド

早野商事のホームページを見ると、従業員とお客様に対する熱い思いが伝わってくる。経営理念は、「私たちの事業はおお客様の喜びのためにある」と、どこの会社にも通用するシンプルな文言であるが、その下に書かれているメッセージには、6坪の寿司店時代を原点とする店側とお客側との温かな関係を彷彿させるのである。

その中の一文を紹介する。

「お客様へのおもてなし」それは、美味しいお食事をご提供することと同時に、対話や感謝の気持ち、そして元気を提供することだと思っております。すべては人の手から人の手へ、これが私たちの合言葉【感動の手渡し】であります。」

たとえば、寿司屋のカウンターで一杯飲みながら中トロを握ってもらう。板さんが「今日の中トロは格別にうまいよ！」などと元気よく握ってくれた中トロを頬張る。口にしたとたん「ほんとだ。これはうまいね！」と感動。しばし、板さんと中トロ談義をする。

これは客にとって至福のときであり、また板前さんにとっても嬉しい瞬間なのだと思う。これぞまさしく、「感動の手渡し」ではあるまいか。

波奈グループは、昭和51年に千葉市に進出して以降、千葉駅周辺（ドミナント戦略）や君津、木更津、成田、さらには東京丸の内や銀座（ブランド戦略）、仙台、さいたま市と県内を越えて出店しているが、その出店ベースには経営の意思を強く感じる。つまり、外部環境によらず、内なる戦略によって事業展開しているストーリーが読みとれるのだ。「感動の手渡し」に景気の波はなし、である。

この理念を貫くには従業員に対する絶えざる教育が不可欠になるが、早野社長が心がけているのは「マニュアル教育ではなくマインド教育」と言う。さもありませんと、顔くばりである。（取材・文／奥平。次回訪問企業は調整中、他薦・自選も募集しています）

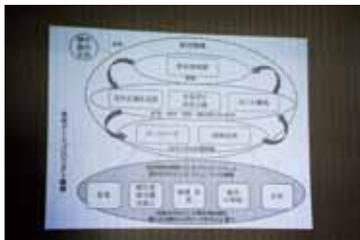
経営研修会レポート

経営研修会 平成25年3月9日(土) 於：千葉県富津市金谷

3月9日(土)JR千葉駅NTT前を9時に出発、千葉県富津市金谷にある富洋観光開発(株)・鈴木裕士社長のお話を伺いに行きました。

途中、鋸山ロープウェイに乗り鋸山からの眺望を楽しみ、金谷コミュニティセンターに移動して鈴木社長の講演を拝聴致しました。父親の時代までは鋸山の房総石を切って生計を立てていたが、町の人口が1500人と減り、65歳以上の高齢者が多く、15歳以下の若年者が少ないという事態に「石の町」も主要産業を失い、疲弊して行く中、鋸山の石切り場が極めて貴重な学術的価値を持っていることを知り、観光資源にして地域の活性化を図りたいと、全国から若者のボランティアを募り、町おこしをされて行くお話でした。千葉県には同じような境遇の町が沢山あると思いますが、鈴木社長の熱い思いで金谷の町の活性化が進んで行く様子が思い浮かぶようでした。講演後に謝礼をお支払い致したところ、ボランティア活動の資金にしたいので、私が戴くのでは無くそちらの口座に振り込んで欲しいとの申し出があり、車中で参加会員に諮ったところ、快く了承されましたので、月星会として10名が代表して指定口座に振り込む事と致しました。その後、昼食会場のザ・フィッシュに移動して楽しく昼ご飯を戴き、女性会員が楽しみにしていた花摘みをし、大混雑の枇杷倶楽部にてお土産を購入して帰路に着きました。

(月星会経営研修委員長 尾形文貴)



例会委員会レポート

夕食例会 於：鮎割烹みどり

2月夕食例会は参加者26名で(株)千葉ロッテマリーンズ事業本部振興部の高瀬智弘さんにM☆Splashの存在意義と経緯、そして今年のロッテマリーンズの展望について熱く語って頂きました。月星会でも毎年応援にいますので今年も大活躍を期待したいところです。



3月夕食例会は参加者24名で(株)千葉都市モノレール代表取締役社長の大澤雅章さんに「千葉都市モノレールのこれまでとこれから」と題して創業25周年を迎える同社の実像に迫るお話を頂きました。映像や音楽を交え楽しく興味深い講演で会員皆さんのモノレールに対する意識も変わったようです。

(林 威樹)



4・5・6月のスケジュール

4/3(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
4/6(土)	春の宴	品川舟清	17:00 出航 15:00 JR千葉駅NTT前 バス出発 参加費 会員 9,000円 ビジター 10,000円
4/12(金)	定例夕食会	19:00開会	参加費 3,000円 会場：鮎割烹みどり
5/1(水)	役員会	18:30開会	プラザ菜の花
5/10(金)	定例夕食会	19:00開会	参加費 3,000円 会場：鮎割烹みどり
6/1(土)	平成25年度 定時総会	18:00開会	参加費無料 会場：ホテルグリーンタワー幕張

会員異動 事務所移転

大岩義充氏 有限会社 アイム設計
〒260-0032 千葉市中央区登戸1-4-1 CIビル2F
TEL.043-244-3939 FAX.043-244-3955

ご結婚

内藤太さん 由紀恵さんと結婚されました。

編集後記

2013年の「新春の集い」から、早2カ月半。気がつけば、桜の季節も終わろうとしています。この時期に新年の記事をトップに持ってくるのは、いささか「旧聞」の感もあり、気が引けるのですが、会報の発行サイクル上、毎年のことなのでお許しください。

今年の「新春の集い」はアペノミクスのキックオフでもあるかのように、元気で華やかな集いだった気がします。臼井先生の表情も、前年までとは違ってどこかホッとしていたように見受けられました。世の中の空気も、閉塞感が漂っていた昨年までとは異なり、希望感、期待感が広がってきています。この前向きの空気を本物の元気につなげていくのは、私たち一人ひとりのポジティブシンキングだと思います。桜は散っても心は満開のまま、といきたいですね。

(奥平)